

狛江市多摩川土手の天端の整備に関する考え方

狛 江 市

平成 28 年 3 月

目 次

1. はじめに	1
2. 多摩川土手の天端の現状	1
3. 市としての方向性	1
4. 3つのコンセプトとその基本的な考え方	2
参考資料	5

1. はじめに

狛江市では、多摩川土手の天端のあり方について検討するため、平成27年4月に地元町会、利用者団体、市民及び行政で構成される狛江市多摩川土手の天端検討委員会（以下、検討委員会という。）を立ち上げ、市民アンケート調査、利用状況調査、視察、他自治体比較、パブリックコメント等により、広範な角度から検討を行ってきました。

この度今後の多摩川の土手について、検討委員会より市に検討結果の報告がなされました。

2. 多摩川土手の天端の現状

市では、平成26年8月に「狛江市多摩川利活用基本計画」を策定し、多摩川河川敷を活用したまちづくりを推進していくこととしています。

多摩川土手の天端の形状については、過去、東京都の「武蔵野の路」整備基本計画により、多摩川土手上を利用したサイクリングロード建設等を施行し始めたものの、土手の自然を守ろうという運動が起きたため、整備は一部を除き未着手のままとなっています。その後、市民参加で整備方法を考える「武蔵野の路話し合い会」が開かれ、当該計画とは異なる舗装形態が提案されましたが、そこで提案された内容について具現化できず、また東京都の事業が終了したことも重なり、工法・財政両方の点から整備に入ることができなかった結果、多摩川土手の天端は現在の状態となっています。

3. 市としての方向性

市では、検討委員会の報告を踏まえ、多摩川土手の天端のあり方について、「ユニバーサルデザイン」、「安心・安全」、「周辺との調和」の3つをコンセプトとして定め、そのコンセプト及びそれに付随するキーワードを満たす土手の天端にするため、整備を進めていきます。

4. 3つのコンセプトとその基本的な考え方

① ユニバーサルデザイン

多摩川は、狛江市の貴重な環境資源であるとともに、多摩川統一清掃（春）、狛江古代カップ多摩川いかだレース（夏）、総合防災訓練（秋）、初春まつり（冬）など、四季折々に開催される様々なイベントに活用されています。また、平日休日問わずジョギングや散歩、スポーツ・レクリエーション活動など、多くの市民に利用されています。子どもからお年寄り、身体の不自由な方など、誰もが気軽に良好な自然環境を楽しむことができる歩行空間を確保することが望まれる場所です。

しかしながら、平成27年6月に実施した利用状況調査（交通量調査）では、このうちベビーカーと車いすの利用者の割合が、いずれも全体の利用者の1%未満に留まっていることが分かりました。また、次ページのアンケート結果から平坦性や水たまりができてにくいことも求められています。

以上のことから、土手の天端の今後のあり方として、誰もが快適に利用できる「ユニバーサルデザイン」をコンセプトの一つとして位置付けます。

■キーワード

- 誰でも心地よく利用できる
- 車いす・ベビーカーでも利用しやすい
- 平坦性・水たまりができてにくい

～利用状況調査抜粋～

	歩行者(人)			自転車(人)		歩行者合計	自転車合計	交通量
	一般	ベビーカー	車いす	一般	競技用			
平日	1,630	9	1	2,475	678	1,640	3,153	4,793
休日	3,486	24	6	3,047	2,514	3,516	5,561	9,077

※実施日 平成27年6月2日（火） 6:00～19:00・6月7日（日） 6:00～19:00

② 安心・安全

土手の天端では、前ページの利用状況調査抜粋からもわかるとおり、自転車を利用して通行している人が多くいます。自転車は、環境負荷もなく、健康増進にも役立つ交通手段であり、通勤、通学や買物など様々な用途に利用されているものですが、一方で自転車に関連する事故の多発、一部の自転車利用者による危険な運転等が社会的な問題となっています。市民アンケート調査においても、土手の天端について望むこととして「歩行者と自転車が安全に通行できること」が最も多く挙げられており、市民が利用者として河川敷を通行したり、多摩川の自然を楽しんだりするうえで、安全性を強く求めていることが伺えます。

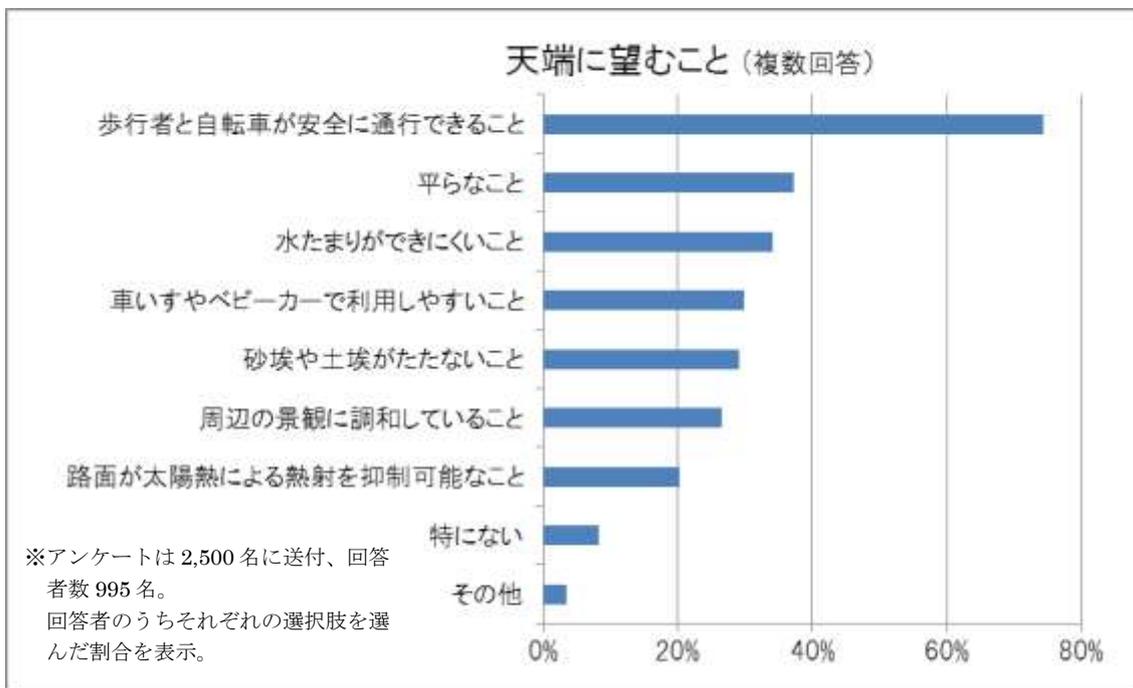
昭和49年9月大型台風が関東地方に上陸し、狛江市では多摩川の増水に起因する堤防の決壊により未曾有の大水害が発生しました。また、昨年9月には茨城県の鬼怒川で堤防決壊が起きています。天端も治水構造物である堤防の一部としてその効果が発揮できる仕様でなければなりません。

「日本一安心で安全なまち」を掲げる狛江市にとって、市民の安心・安全の確保は最優先に考えるべきものであり、日常の歩行者の安全確保及び非常時の出水からの安全の両方を確立することが必要となります。また、安心・安全を確保できるよう日頃から管理が行き届くよう管理しやすい構造でなければなりません。

以上のことから、土手の天端の今後のあり方として、誰もが安全で安心して利用できる「安心・安全」をコンセプトの一つとして位置付けます。

■キーワード

- 歩行者の安全確保
 - 治水目的を発揮できる天端
 - 安全で管理しやすい構造
- ～市民アンケート調査抜粋～



③ 周辺との調和

多摩川は、水と緑のまちである狛江を象徴するものです。多摩川は、数多くの動植物が生存し、それぞれが関わりあいながら豊かな自然を構成しています。その多摩川の自然を誰もが親しみ、多摩川が有する時間と空間に広がりを感じられるように、多摩川の環境を保全しつつ、様々な要素に配慮することが必要です。

毎年開催されている「多摩川統一清掃」は、豊かな自然や景観を保全するために多くの市民が参加しており、また、狛江古代カップ多摩川いかだレースや花火大会などの季節のイベントやお花見の季節には他の自治体からも多くの人を訪れ、多摩川は市内外のたくさんの人から愛され、支えられています。

今後も市民が誇れる景観を守るとともに、周辺の環境にも十分配慮をし、他の自治体の住民にも愛されるよう、周辺との調和を重視していくこととします。

以上のことから、土手の天端の今後のあり方として、誰もが親しみをもって利用できる「周辺との調和」をコンセプトの一つとして位置付けます。

■キーワード

- 環境に優しい
- 景観の維持

参考資料

狛江市多摩川土手の天端検討委員会委員名簿
検討委員会
市民アンケート調査
利用状況調査

狛江市多摩川土手の天端検討委員会委員名簿

氏名	区分	備考
飯田 忠平	猪方町会	平成 27 年 7 月まで
岩間 正隆	猪方町会	平成 27 年 8 月から
佐藤 英一	駒井町会	
志村 博之	元和泉 2・3 丁目町会	
藤村 忠彦	水辺の楽校	
澤野 眞一	市民委員	
原 捷之	市民委員	
大塚 満	京浜河川事務所多摩出張所長	
中山 浩志	環境政策課長	
遠藤 慎二	道路交通課長	

検討委員会

第 1 回

日 時：平成 27 年 5 月 22 日（金）午前 10 時から午前 11 時 45 分まで

場 所：狛江市役所 503 会議室

配布資料：① 狛江市多摩川土手の天端検討委員会の設置及び運営に関する要綱

② 狛江市多摩川土手の天端検討委員会名簿

③ 委員会及び議事録の取扱いについて（案）

④ 傍聴される皆様へ（案）

⑤ 概要図

⑥ 狛江市多摩川土手の天端に関するアンケート調査（案）

⑦ 利用状況調査実施計画（案）

議 題：① 委員長等について

② 委員委嘱状交付

③ 会議の進め方等について

④ 多摩川土手の天端について

ア) 過去の経過及び現状について

イ) アンケート及び利用状況調査の実施について

⑤ その他

第 2 回

日 時：平成 27 年 8 月 26 日（水）午前 10 時 30 分から午後 0 時 15 分まで

場 所：狛江市役所 502 会議室

- 配布資料：① 狛江市多摩川土手の天端検討委員会名簿
② 土手の天端の方向性について（案）
③ 多摩川土手の天端利用状況調査結果
④-1 狛江市多摩川土手の天端に関するアンケート調査結果
④-2 アンケート質問事項について
- 議 題：① 委員の変更について
② 土手の天端の方向性について
③ 利用状況調査結果について
④ アンケート調査結果について
⑤ 他自治体視察について
⑥ その他

第3回

- 日 時：平成27年11月18日（水）午前9時30分から11時15分まで
場 所：狛江市役所502会議室
- 配布資料：① 狛江市多摩川土手の天端検討委員会（視察）
② 多摩川土手の天端自治体別比較表
③ コンセプト案
④ 多摩川土手の天端検討委員会 今後のスケジュールについて
- 議 題：① 視察結果について
② 他自治体比較について
③ 今後のスケジュールについて
④ コンセプト（案）について
⑤ その他

第4回

- 日 時：平成27年12月10日（木）午後1時35分から3時25分まで
場 所：防災センター302会議室
- 配布資料：① - 1 多摩川堤防道路について
① - 2 多摩川緊急河川敷道路整備状況
② 狛江市多摩川土手の天端検討委員会中間報告
③ - 1 パブリックコメント及び市民説明会について
③ - 2 説明会配布用資料案
- 議 題：① 周辺道路について
② 狛江市多摩川土手の天端検討委員会中間報告について
③ パブリックコメント及び市民説明会について
④ その他

第5回

日 時：平成 28 年 2 月 22 日（月）午後 3 時から 5 時 15 分まで

場 所：防災センター302 会議室

配布資料：① 狛江市多摩川土手の天端に係るコンセプト素案市民説明会結果

② - 1 狛江市多摩川土手の天端に係るコンセプト素案パブリックコメント実施結果概要

② - 2 パブリックコメント回答案（集約）

② - 3 パブリックコメント意見

③ 狛江市多摩川土手の天端検討委員会検討結果について（案）

議 題：① 市民説明会結果について

② パブリックコメント回答案について

③ 報告書（案）について

第6回

日 時：平成 28 年 3 月 18 日（金）午後 3 時から 3 時 15 分まで

場 所：防災センター302 会議室

配布資料：① 狛江市多摩川土手の天端検討委員会検討結果について

議 題：① 報告書について

② その他

市民アンケート調査

I. アンケート調査の概要

1. 配布・回収状況

アンケートの配布・回収の状況は次のとおりである。

- 配布数：2,500 票（満 15 歳以上の市民の中から無作為に抽出し、送付）
- 配布・回収方法：調査票を送付し、郵送回収
- 期間：平成 27 年 6 月 25 日に発送し、7 月 24 日到着分をもって締切
- 回収数：995 票（回収率 39.8 %）

2. 設問内容

アンケートの設問内容は次のとおりである。

（1）属性

- 問 1 性別（単回答）
- 問 2 年齢（単回答）
- 問 3 住所（単回答）
- 問 4 世帯構成（単回答）

（2）狛江市多摩川土手の天端について

- 問 5 河川敷の利用頻度（単回答）
- 問 6 河川敷の利用目的（複数回答）
- 問 7 天端についての満足度（単回答）
- 問 8 現在の土手の天端について、あなたが望むこと（複数回答）
- 問 9 土手の天端をどう整備すべきか（単回答）
- 問 10 狛江市多摩川河川敷について（自由記載）

※集計・記載について

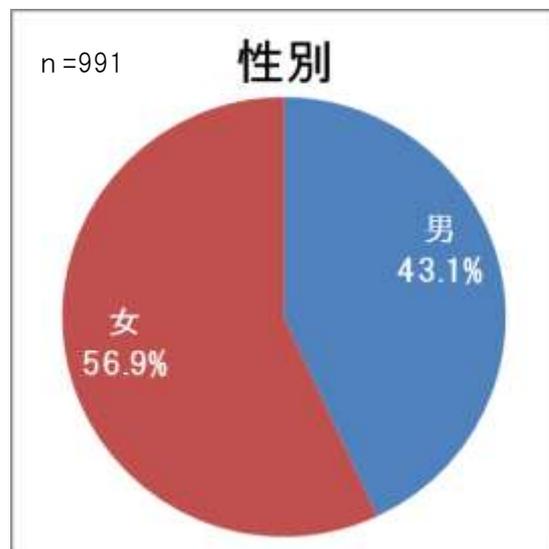
- （1）本調査の集計分析対象とした調査票総数は 995 である。数表中の n は比例算出の基礎となるその設問の回答者数を表している。
- （2）個々の選択肢比率を合算する場合は、個々の回答数の合計を n で除して百分率を求め、小数第 2 位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が 100%にならない場合がある。
- （3）アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が 100%を超える。

Ⅱ. 調査結果

(1) 属性

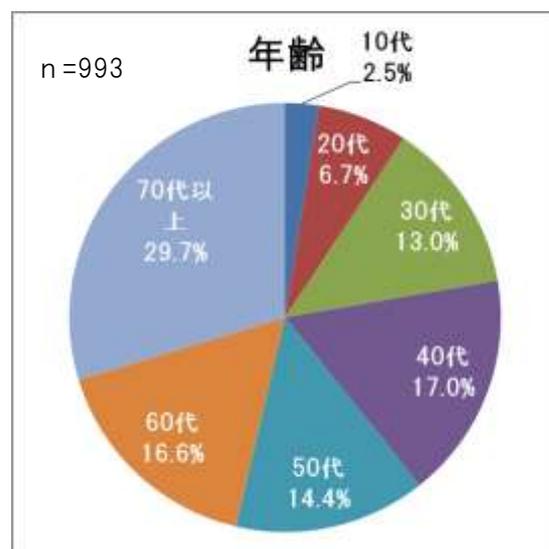
① 性別 (単回答)

回答者の性別は、女性 56.9%、男性 43.1%であった。



② 年齢 (単回答)

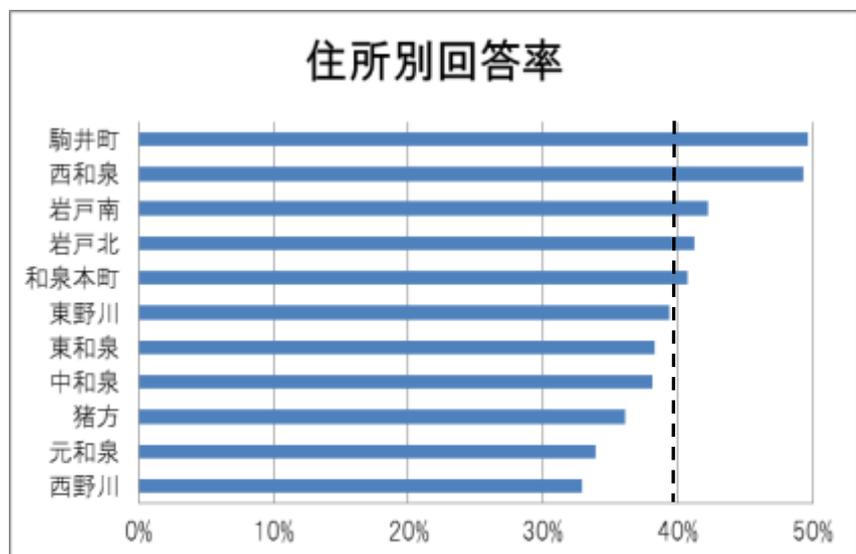
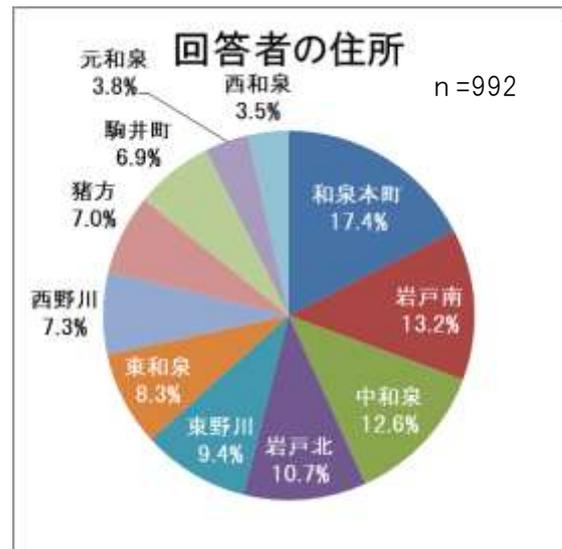
回答者の年齢は、10代 2.5%、20代 6.7%、30代 13.0%、40代 17.0%、50代 14.4%、60代 16.6%、70代以上 29.7%であった。



③ 住所（単回答）

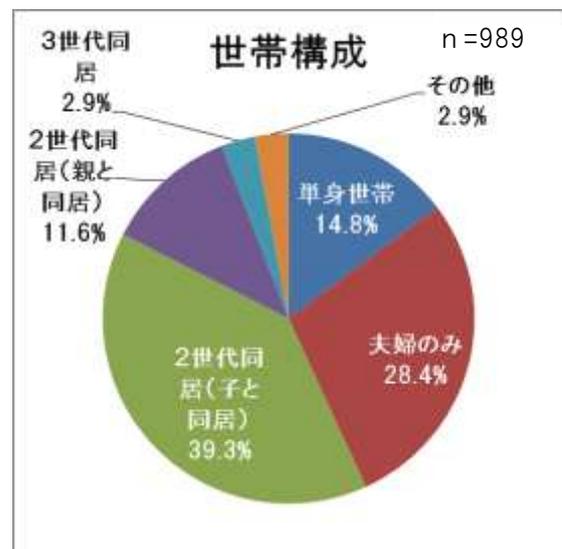
回答者の住所は、和泉本町、岩戸南、中和泉、岩戸北、東野川、東和泉、西野川、猪方、駒井町、元和泉、西和泉の順で多かった。

住所別の回答率は、駒井町、西和泉、岩戸南、岩戸北、和泉本町が全体の回収率 39.8%を超えていた。



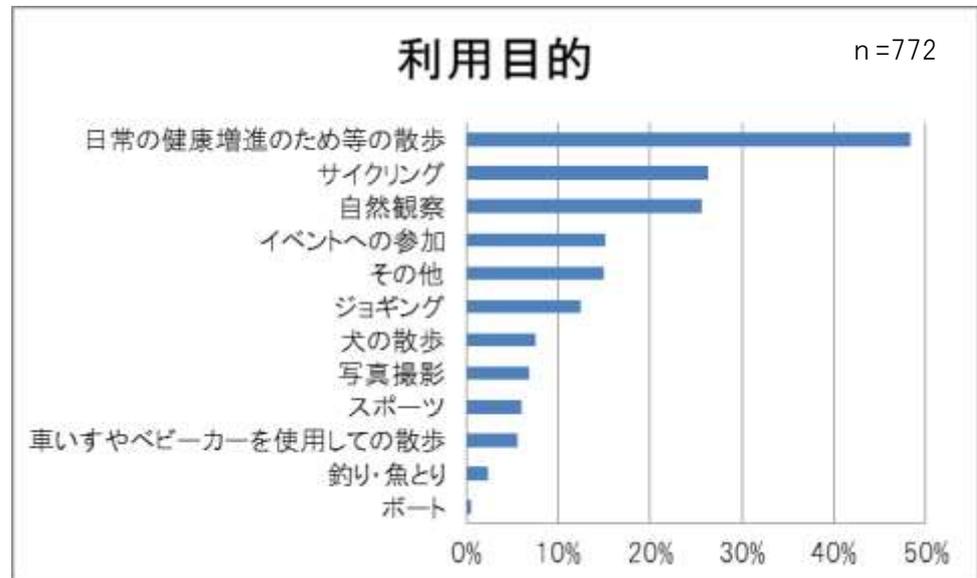
④ 世帯構成（単回答）

回答者の世帯構成は、単身世帯 14.8%、夫婦のみが 28.4%、2世代同居（子と同居）が 39.3%、2世代同居（親と同居）が 11.6%、3世代同居が 2.9%、その他が 2.9%であった。



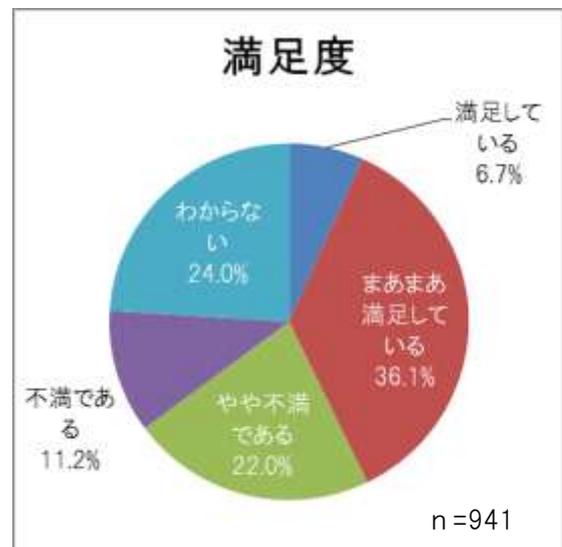
② 河川敷の利用目的（複数回答）

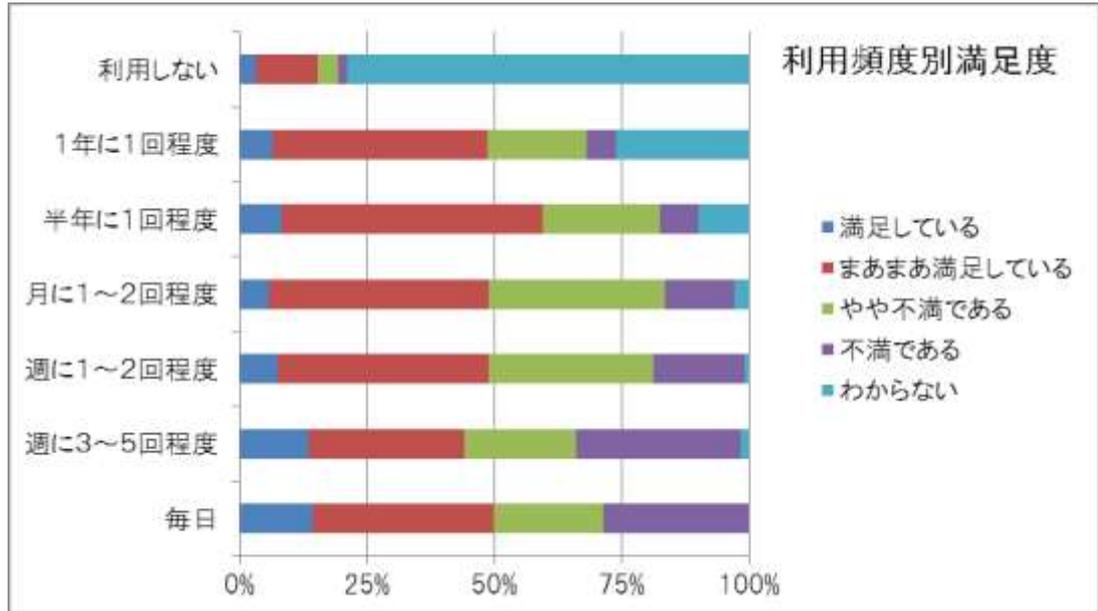
日常の健康促進のため等の散歩、サイクリング、自然観察で利用される方が多かった。イベントは、花火大会やいかだレース、多摩川統一清掃など市の事業への参加が多かった。その他としては、花見や通り道として利用される方が多かった。



③ 天端についての満足度（単回答）

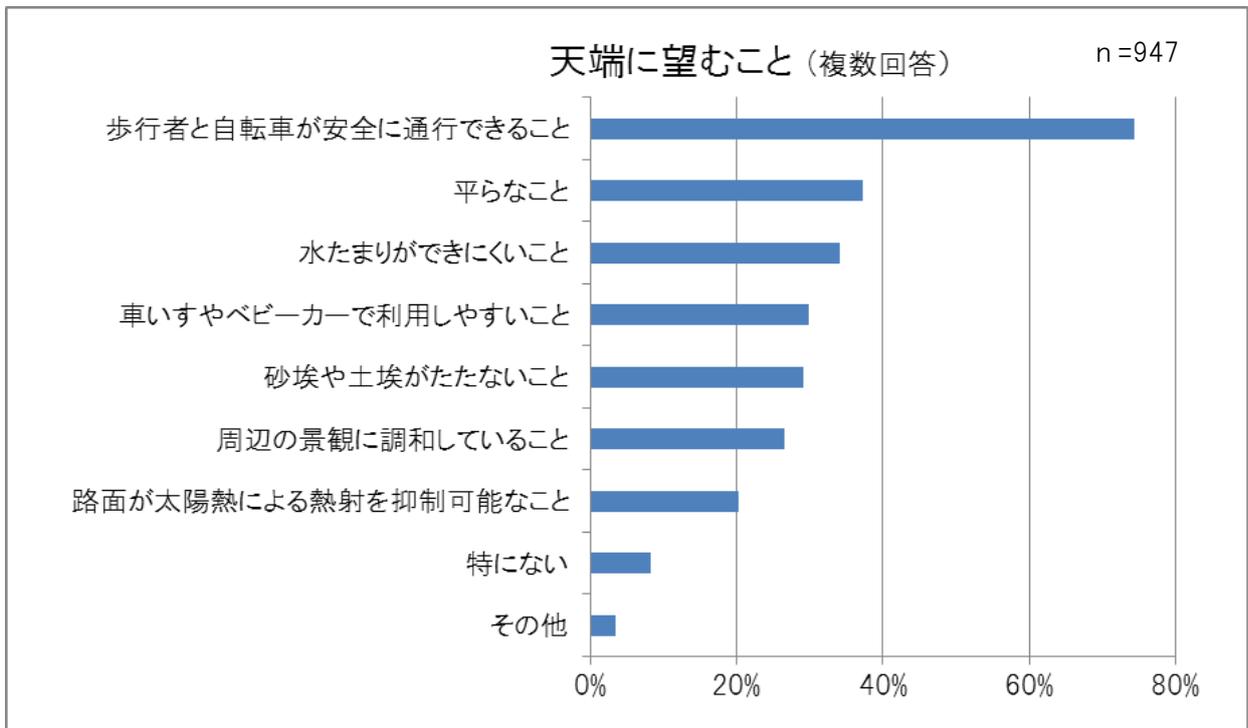
まあまあ満足している、やや不満である、不満である、満足しているの順に多かった。





利用しない方はわからないと答える割合が高かった。他については利用頻度と満足度に相関関係は見られなかった。

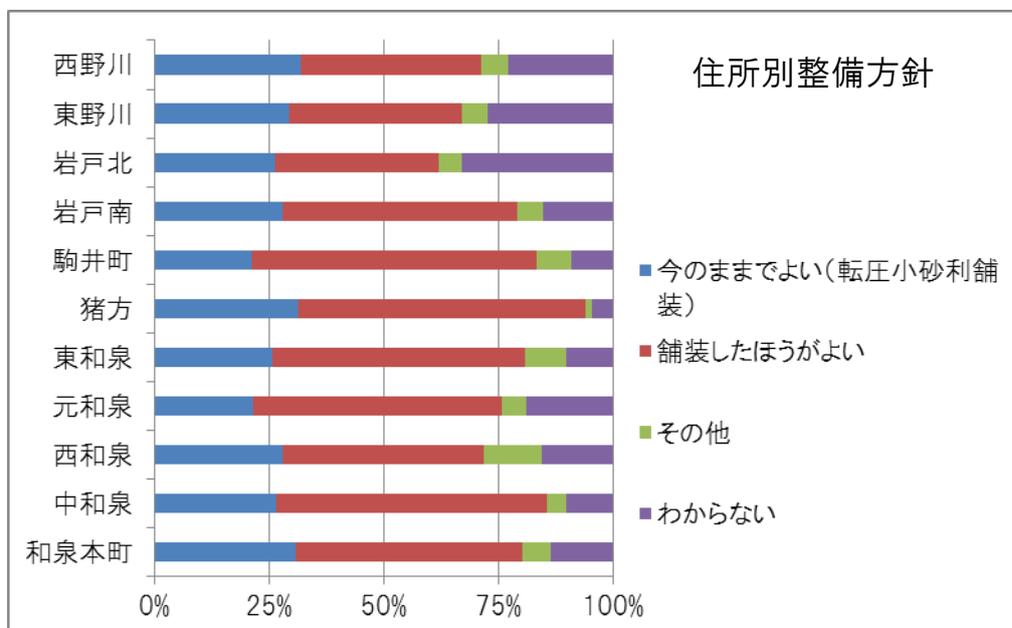
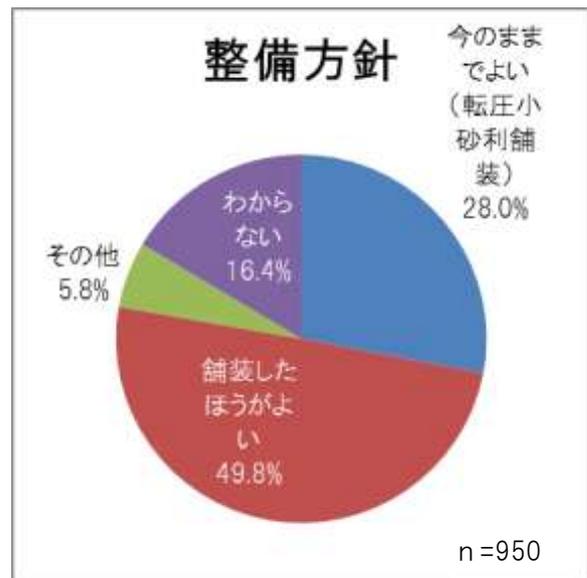
④ 現在の土手の天端について、あなたが望むこと（複数回答）



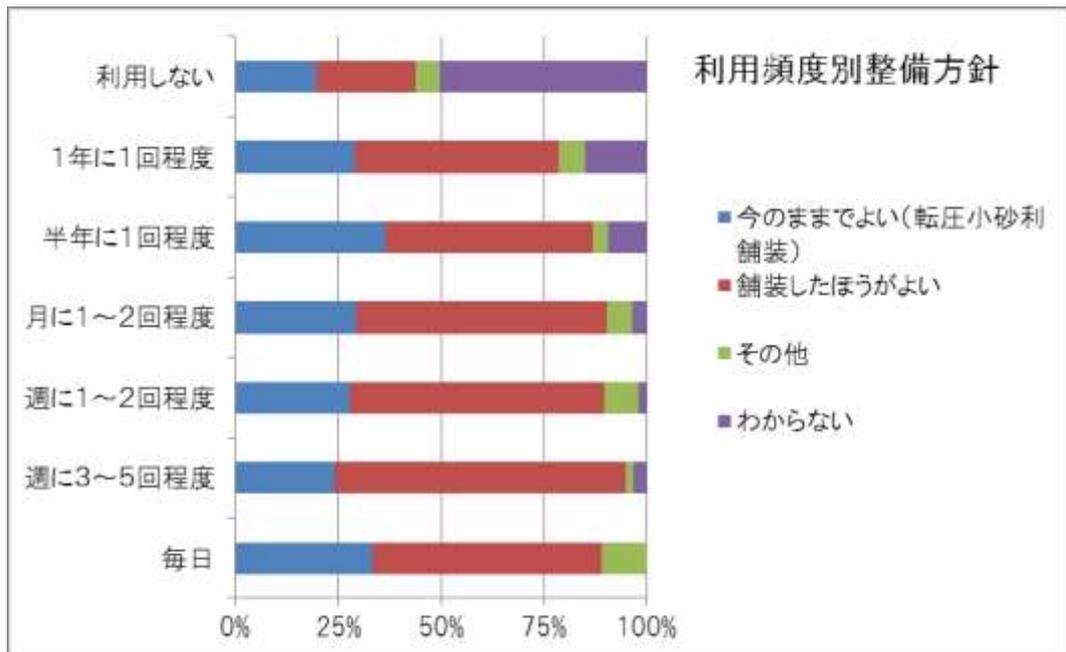
歩行者と自転車が安全に通行できることを望む方が特に多かった。3割近くの方が、平らなこと、水たまりができてにくいこと、車いすやベビーカーで利用しやすいこと、砂埃や土埃がたたないことを望んでいた。

⑤ 土手の天端をどう整備すべきか（単回答）

舗装を望む方がおおよそ半数を占めていた。一方で今のままでよいと答えた方も3割弱いた。その他では、幅を広くすること、自転車と歩行者と分けること、災害に強い整備、などを望む方が多かった。

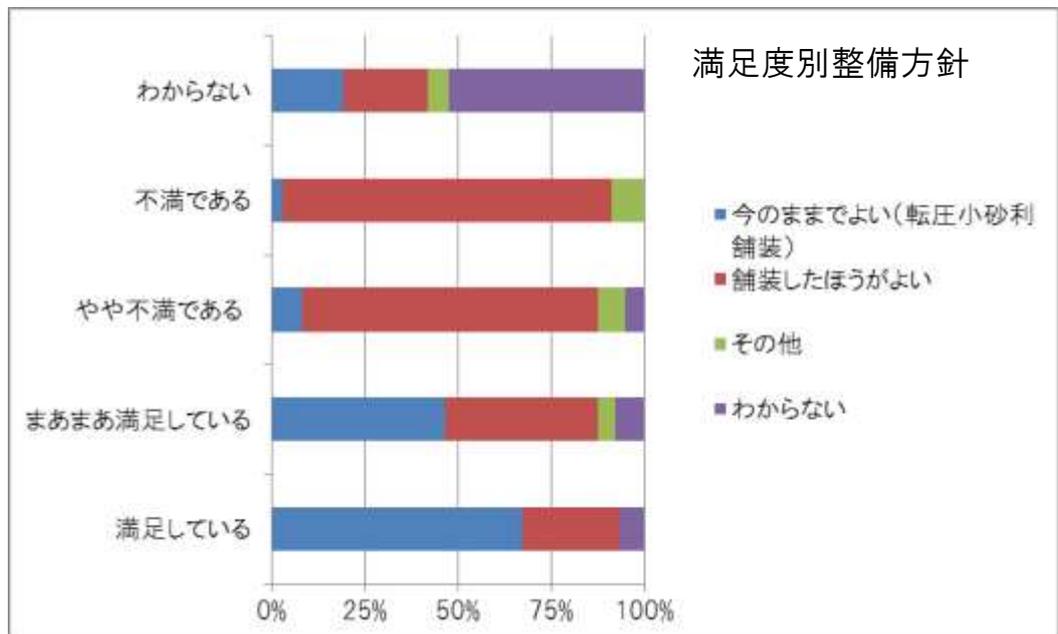


舗装を希望する方の割合は駒井町、猪方に住んでいる方は高く、東野川、岩戸北に住んでいる方は低かった。また、東野川、岩戸北に住んでいる方は、わからないと答えた割合も高かった。



利用頻度が上がるとある整備方針の割合が上がるといった単純な関係性はなかったが、月に1~2回以上利用している方は全体と比べると舗装したほうがよいと考える傾向があった。一方で半年に1回程度利用する方は今のままでよいと回答する割合が全体と比べて高かった。

また、利用しない方は半数近くの方がわからないと回答した。



満足度と整備方針には相関関係があり、満足度が高いほど今のままでよいと回答し、満足度が低いほど舗装すべきと回答していた。

⑥ 狛江市多摩川河川敷について（自由記載）

主な意見（内容は要約しています）

・整備に関するもの

- 自転車と歩行者を分離してほしい。
- 舗装してほしい。
- タータン舗装にしてほしい。
- 中央部分のみ舗装してほしい。
- 外灯を設置してほしい。
- 安心、安全を第一に整備してほしい。
- 近隣自治体と統一感を持った整備をしてほしい。
- 距離を表示してほしい。
- 天端の幅員を広くしてほしい。
- 人の手をあまり入れないでほしい。
- 日陰ができるもの、ベンチを設置してほしい。
- 駐車場・駐輪場を整備してほしい。
- トイレを増やしてほしい。
- スポーツが出来る広場を作ってほしい。
- スロープを増やしてほしい。
- 植栽をしてほしい。
- ドッグランを設置してほしい。
- 水飲み場、売店、カフェを作ってほしい。

・管理に関する意見

- 除草の頻度を上げてほしい。
- 自転車のスピードを抑制してほしい。
- ホームレス対策をしてほしい。
- 凸凹や水たまりをなくしてほしい。
- 犬のノーリード禁止、フンの始末を徹底してほしい。

・バーベキューに関する意見

- 有料バーベキュー施設を作ってほしい。
- バーベキュー禁止になってよかった。

・その他

- いまのままでよい。
- 自然を残してほしい。
- 車道を廃止してほしい。
- 有効にアピールしてほしい。
- 景観に対する規制を考えてほしい。

利用状況調査

I. 調査内容

1 調査の目的

粕江市内の主要3箇所における自転車及び歩行者の方向別交通量調査を行い、現況の利用状況を把握することを目的とする。

2 調査日時

平成27年6月2日(火) 6:00~19:00【連続13時間】

平成27年6月7日(日) 6:00~19:00【連続13時間】

3 調査場所

市内3か所(下記図のとおり)



4 調査方法

調査員が数取器を用いて各地点で方向別にカウントする。

観測分類は歩行者(徒歩・車いす利用者・ベビーカー)、自転車(一般自転車・競技用自転車)とする。

なお、一般自転車、競技用自転車の区別は、利用者がヘルメット着用しているか否かで判断し、利用者が成人かつ、ヘルメットを着用している場合は競技用自転車とする。

Ⅱ. 調査結果

1 全体交通量および地点別交通量

(1) 平日、休日の全体交通量

調査地点全体の平日の交通量は 4,793 人、休日の交通量は 9,077 人と休日の方が多かった。

平日の交通量では歩行者の交通量が 1,640 人、自転車の交通量が 3,153 人と自転車の方が多かった。休日の交通量でも歩行者の交通量が 3,516 人、自転車の交通量が 5,561 人と自転車の方が多かった。

ベビーカーや車いすの利用は、平日、休日のどちらもそれぞれ 1%未満（平日 1,640 人中：ベビーカー 9 人・車いす 1 人、休日 3,516 人中：ベビーカー 24 人、車いす 6 人）であった。

競技用自転車の利用は、平日は 21.5%(3,153 人中 678 人)、休日は 45.2%(5,561 人中 2,514 人)と休日は競技用自転車の利用割合、利用者数ともに増加している。

表（1）平日、休日の全体の交通量

	歩行者(人)			自転車(人)		歩行者合計	自転車合計	交通量	歩行者割合(%)	自転車割合(%)
	一般	ベビーカー	車いす	一般	競技用					
平日	1,630	9	1	2,475	678	1,640	3,153	4,793	34.2	65.8
休日	3,486	24	6	3,047	2,514	3,516	5,561	9,077	38.7	61.3

2 全体の時間変動図

(1) 平日、休日の全体交通量の時間変動図

平日の全体交通量は、6時台と16時台にピークがある2山パターンを示している。また、歩行者の交通量は、6時台と16時台にピークがある2山パターン、自転車の交通量は7時台と17時台に小さなピークがある2山パターンを示している。

休日の全体交通量は、10時台と16時台にピークがある2山パターンを示している。また、歩行者の交通量は、9時台～10時台と16時台～17時台にピークがある2山パターン、自転車の交通量は10時台と14時台～16時台にピークがある2山パターンを示している。

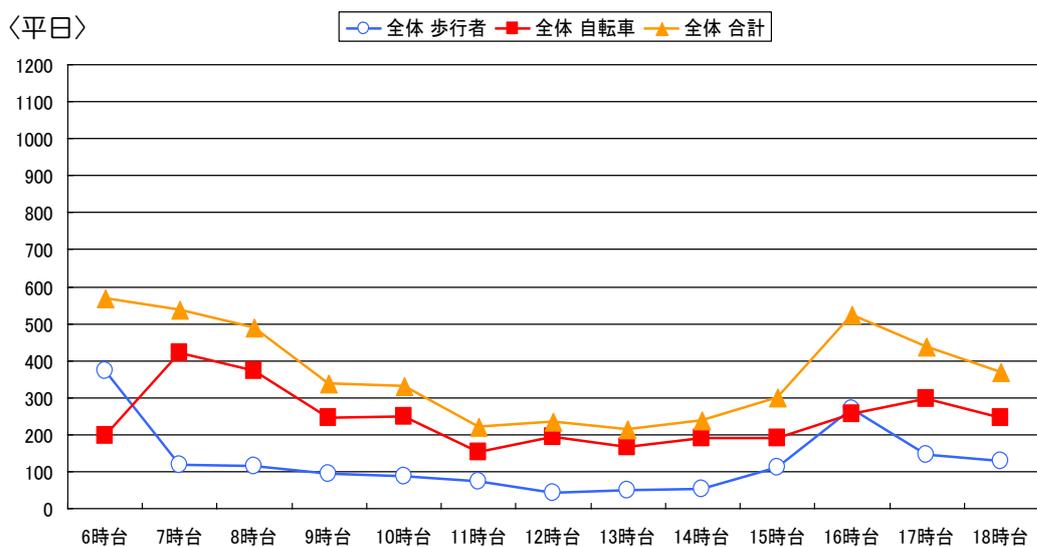


図 1-1 交通量時間変動図

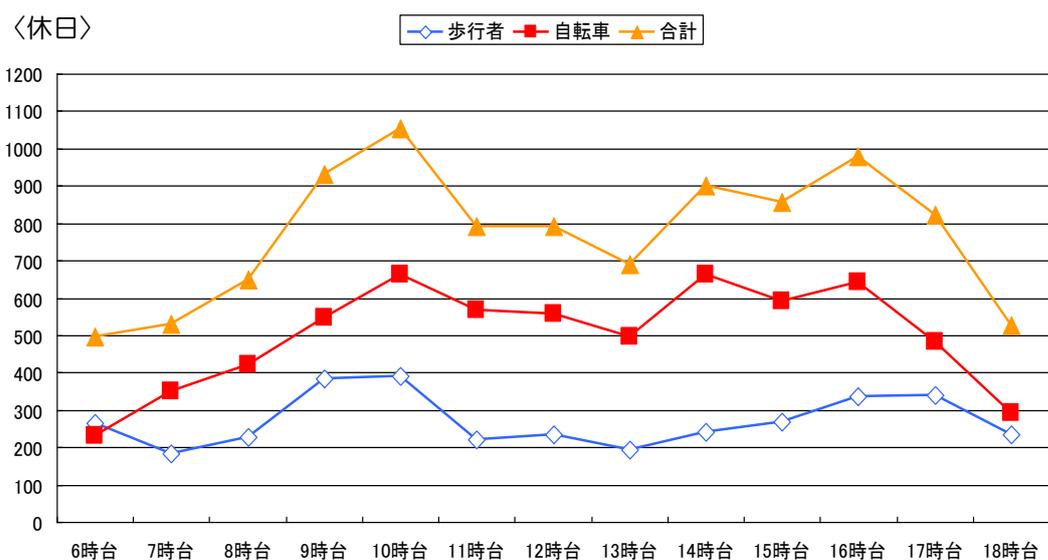


図 1-2 交通量時間変動図

3 全体・地点別交通量の流動図

(1) 平日、休日の全体交通量の流動図

平日の全体交通量の流動図は、図2-1に示すとおりである。図2-1より、狛江市内の多摩川土手の天端の利用者のうち歩行者は、平行して走る道路の方にはあまり流れず、多摩川土手の天端沿いを移動している歩行者の方が多いことが示されている。自転車は、多摩川土手の天端沿いよりも平行して走る道路の方へと流れていることが示されている。

休日の全体交通量の流動図は、図2-2に示すとおりである。図2-2より、狛江市内の多摩川土手の天端の利用者は、数値は増加しているものの平日と同様の傾向を示している。

歩行者と自転車で流動図の傾向が違う要因としては、狛江市内の多摩川土手の天端がアスファルト舗装箇所と転圧小砂利舗装が混在していることが考えられる。そのため、自転車が通行しやすいアスファルト舗装箇所を選択し、歩行者との流動図の傾向の違いが出るものとする。また、歩行者は、アスファルト舗装箇所、転圧小砂利舗装の区別なく多摩川土手の天端沿いを通行していると思われる。さらに、平日と休日では、休日になると多摩川土手の天端の利用者が増加するため、その傾向が顕著になる。

〈平日〉

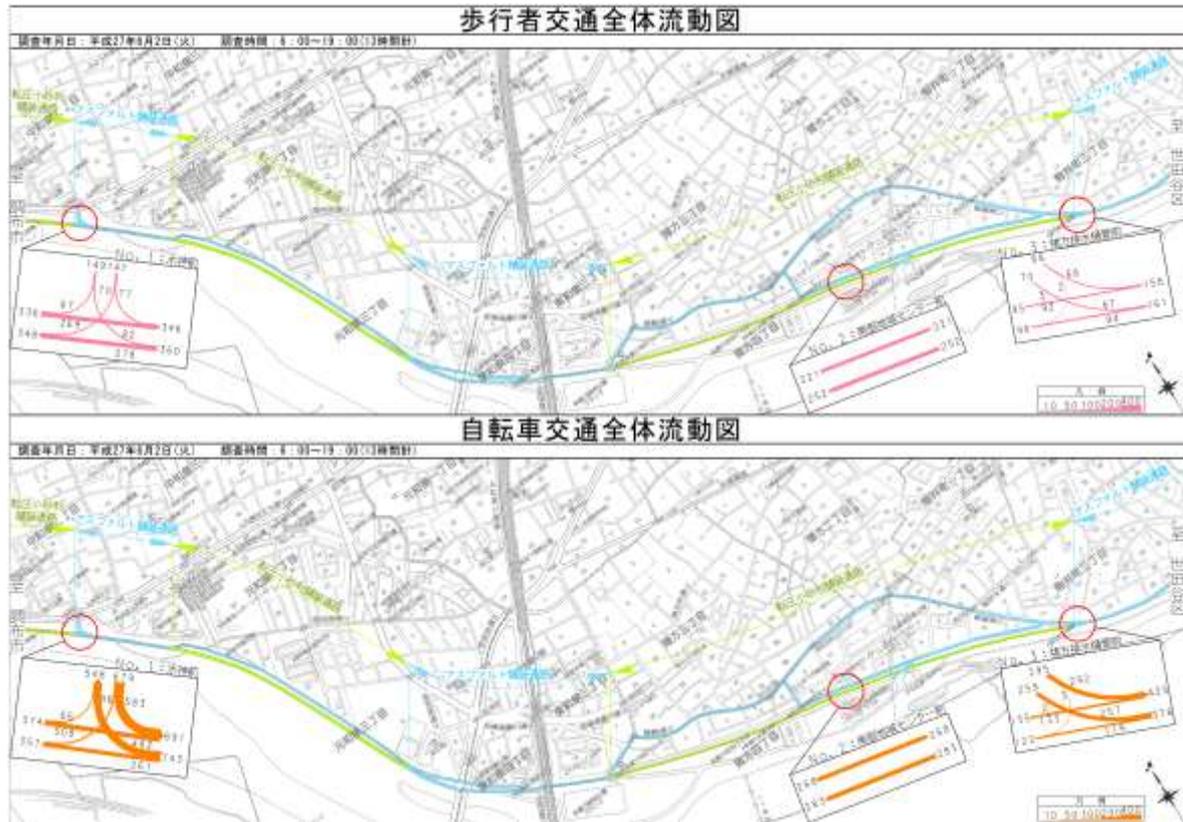


图 2-1 全体流動図

〈休日〉

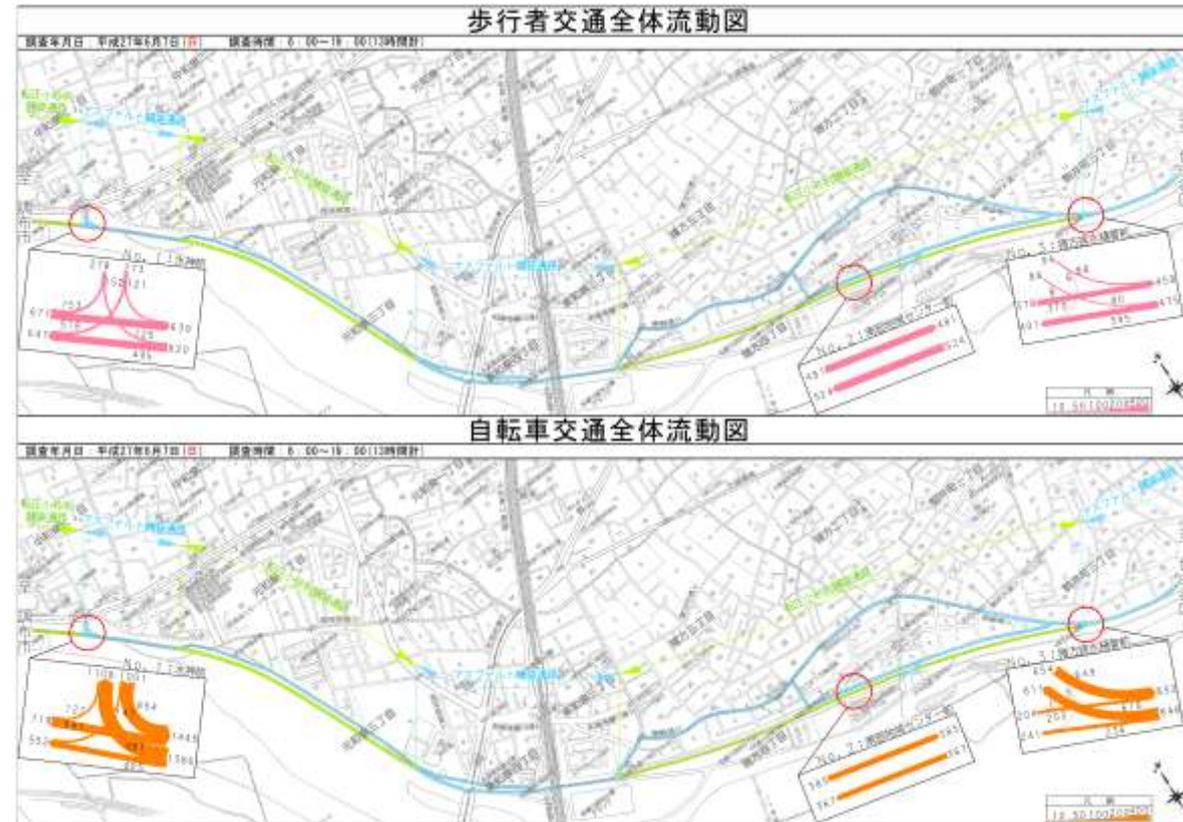


图 2-2 全体流動図

4 調査結果のまとめ

調査結果をまとめた表を以下に示す。

表（2）多摩川土手の天端交通量のまとめ

全体

①交通量	休日のほうが平日より多い。（平日：4,793人、休日9,077人）
②歩行者・自転車	平日：歩行者：1,640人、自転車：3,153人 休日：歩行者：3,516人、自転車：5,561人
③歩行者詳細	平日：一般：1,630人、ベビーカー：9人、車いす：1人 休日：一般：2,475人、ベビーカー：24人、車いす：6人 割合：ベビーカー、車いすは、平日、休日のどちらもそれぞれ1%未満
④自転車詳細	平日：一般：2,475人、競技用自転車：678人 休日：一般：3,047人、競技用自転車：2514人 割合：競技用自転車：平日：21.5%、休日：45.2%
⑤時間帯別	平日：6時台、16時台 休日：10時台、16時台
⑥流動図	歩行者：多摩川土手の天端沿いを通行 自転車：多摩川土手の天端と平行して走る道路へ流れている